

高知支部のジェネリック医薬品に係る 現状分析と対策について



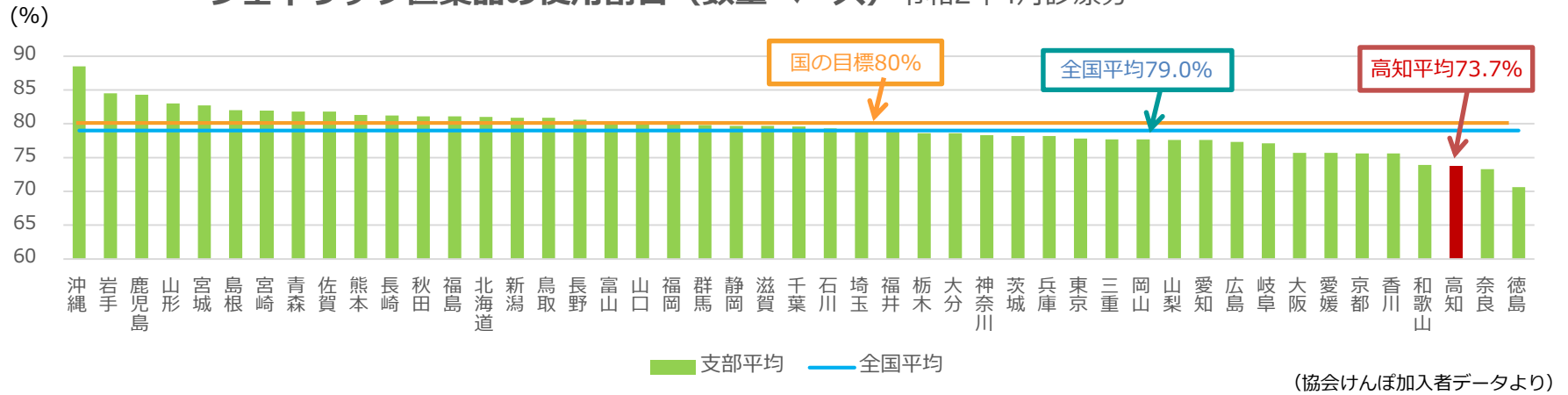
全国健康保険協会 高知支部
協会けんぽ

本資料のデータについて

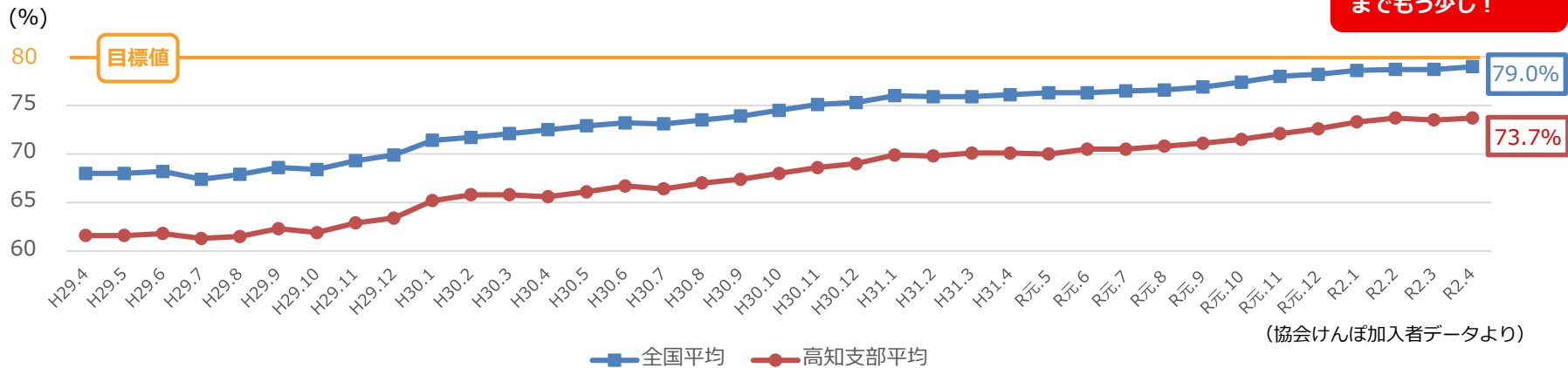
- 注1. 協会けんぽ（一般分）の医科、DPC、歯科、調剤レセプトについて集計したものである。（ただし、電子レセプトに限る。）
なお、DPCレセプトについては、直接の診療報酬請求の対象としていないコーディングデータを集計対象としている。
- 注2. 加入者の適用されている事業所所在地の都道府県毎に集計したものである。
- 注3. 「新指標による後発医薬品使用割合（数量ベース）」は、 $\frac{[\text{後発医薬品の数量}]}{([\text{後発医薬品のある先発医薬品の数量}] + [\text{後発医薬品の数量}])}$ で算出している。医薬品の区分は、厚生労働省「各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報」に基づいて設定している。
- 注4. 「数量」は、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えたものをいう。ただし、経腸成分栄養剤、特殊ミルク製剤、生薬、漢方を除く。
- 注5. 薬効分類は、「日本標準商品分類」の「中分類87-医薬品及び関連製品」に準拠して設定している。
- 注6. 医薬品の区分は、厚生労働省「各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報」による。
- 注7. 年齢は、実際の診療年月末日時点である。
- 注8. 社会保険診療報酬支払基金から請求のあったレセプト（再審査分を除く）を集計対象とし、請求月の前々月を診療年月として表示している。（例えば、平成31年4月診療で集計対象としているのは、平成31年6月に社会保険診療報酬支払基金から請求のあったレセプトである。）

1. 全国平均と比較した高知支部のジェネリック医薬品の使用割合について（数量ベース）

ジェネリック医薬品の使用割合（数量ベース） 令和2年4月診療分



ジェネリック医薬品の使用割合の推移（数量ベース）

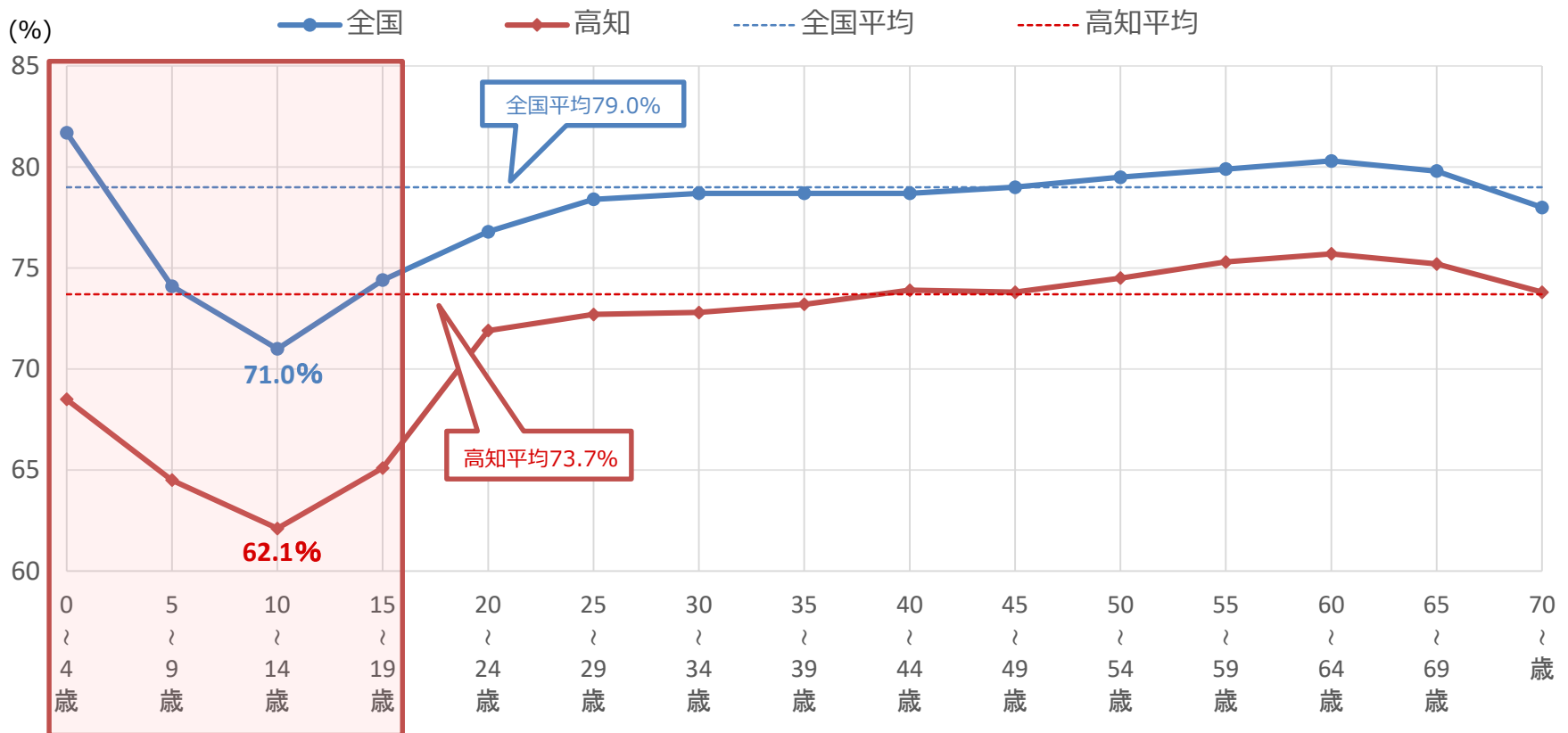


使用割合は着実に伸びてきていますが、全国平均と比較すると依然として差がある状態となっています。国が定めた目標は、令和2年9月までに80%を達成するとなっていますので、少しでも目標に近づける必要があります。

2. 年齢区分別ジェネリック医薬品使用割合の全国平均との比較について（数量ベース）

年齢区分別ジェネリック使用割合

（令和2年4月診療分）

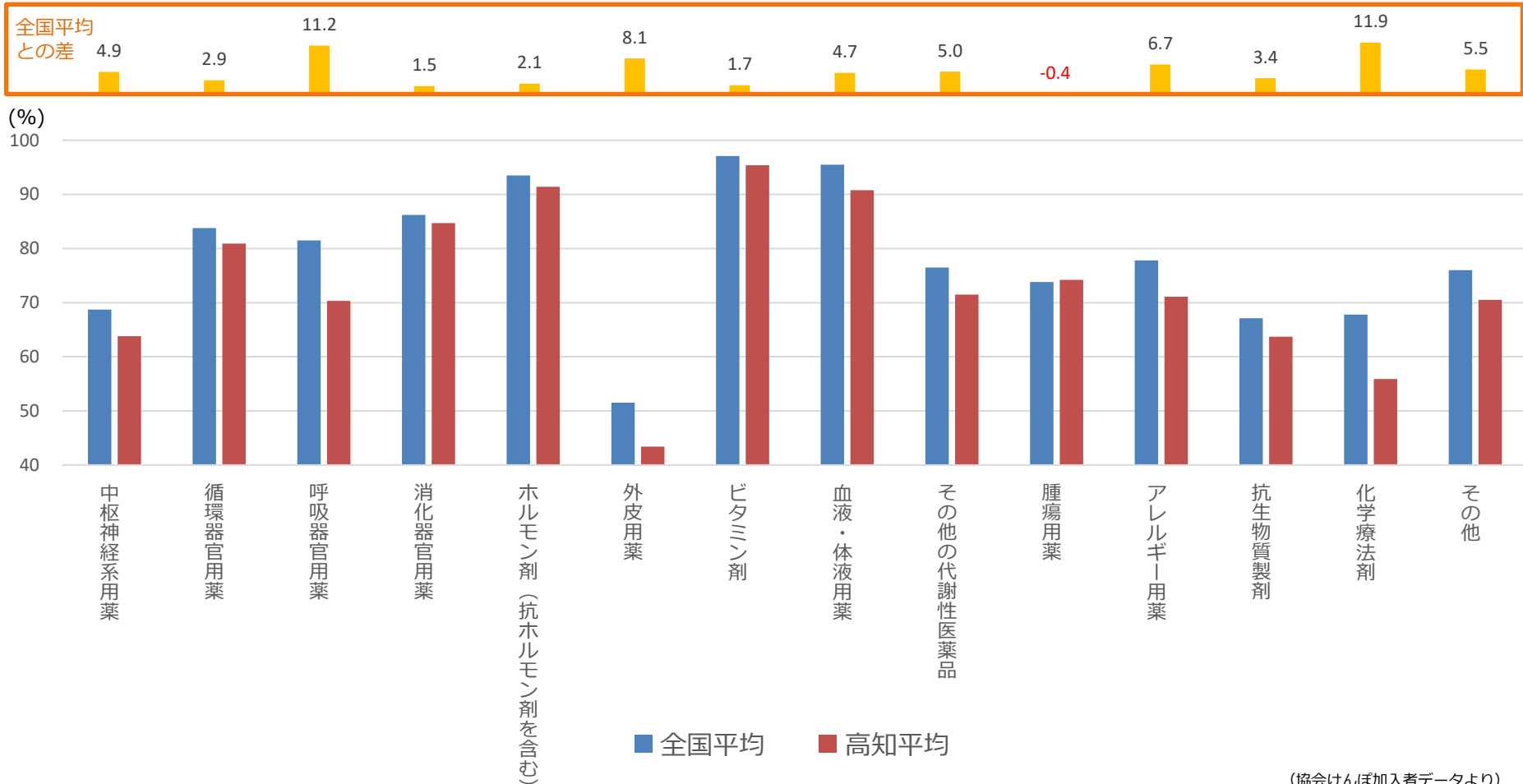


（協会けんぽ加入者データより）

全国と比較して高知支部は、**特に0～14歳の若年層の使用率が低い**傾向があります。医療費の高い都道府県は、保険料率も高くなる仕組みとなっていますので、皆さまにご負担いただいている保険料に影響が出てくる可能性があります。助成制度などで自己負担がない方の一層のご協力が求められています。

3. 薬効分類別ジェネリック医薬品使用割合の全国平均との比較について（数量ベース）

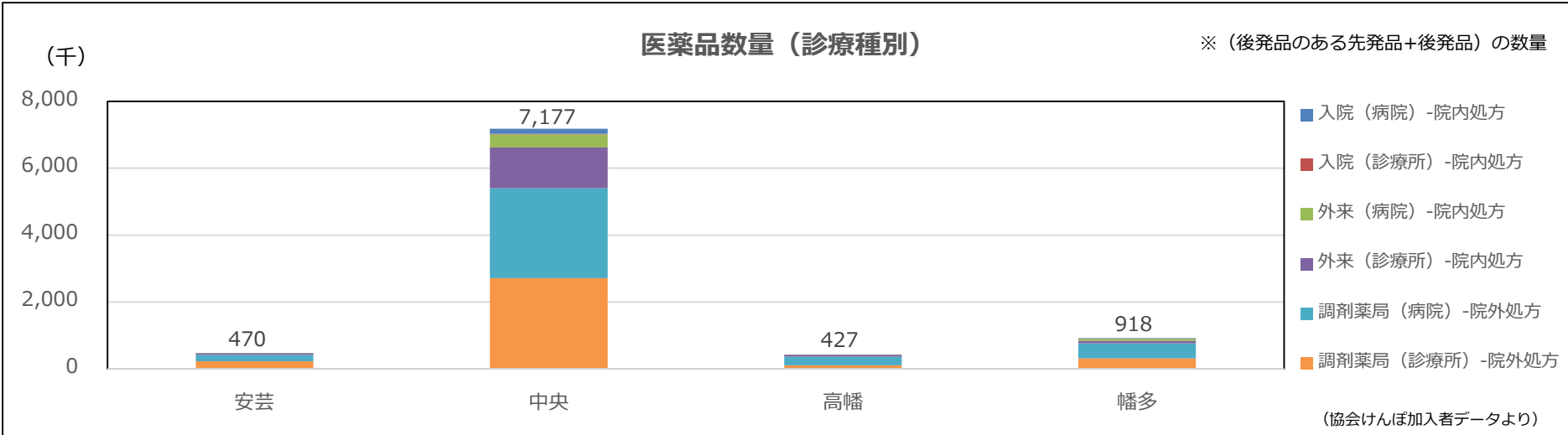
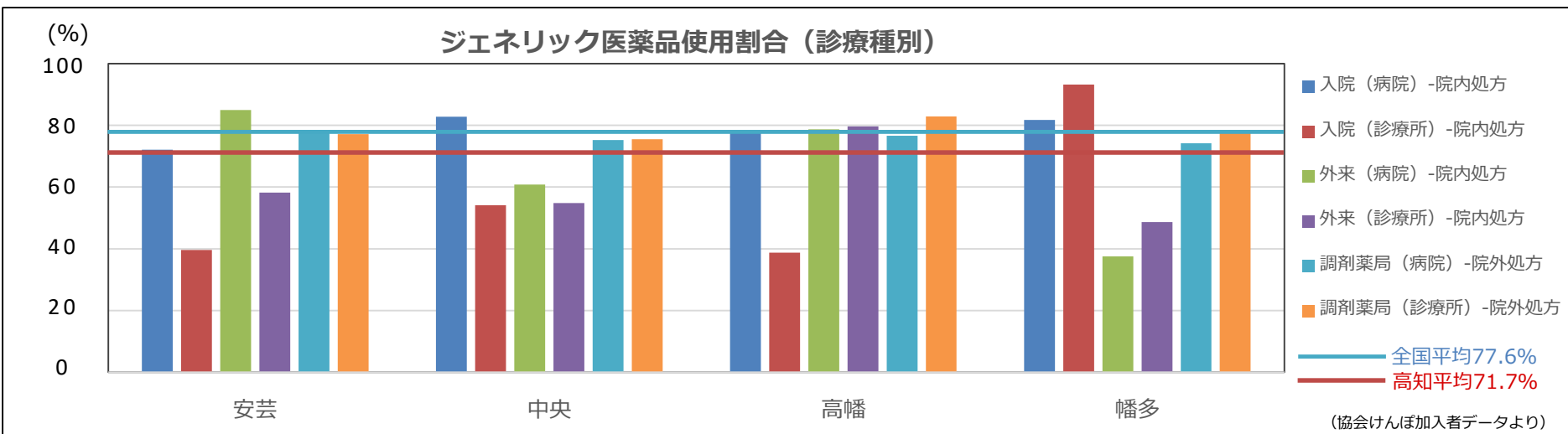
主な薬効分類別 ジェネリック医薬品使用状況（令和2年4月診療分）



（協会けんぽ加入者データより）

薬効分類別では、全国的に外用薬の使用割合が最も低くなっています。添加剤の違いによって塗り心地に差が出やすいなどの理由があるようです。全国の使用割合と比較すると高知支部は、呼吸器官用薬、アレルギー用品、外用薬の使用率が特に低くなっています。

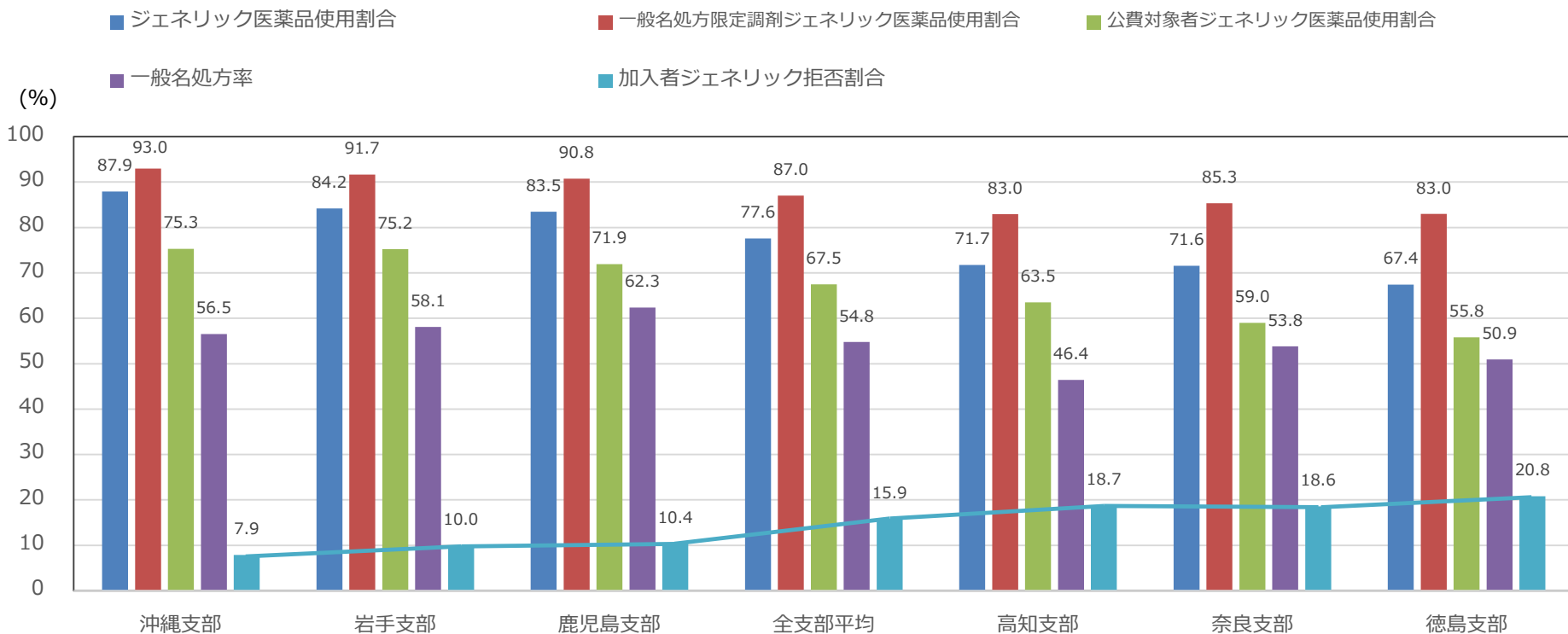
4. 地区（二次医療圏）別のジェネリック医薬品の数量と使用割合について（令和元年10月診療分）



地区別の使用割合では、各地区で診療種別ごとに使用割合に大きな差が見られます。次に医薬品数量で見ると、各地区で調剤薬局（病院）、調剤薬局（診療所）の数量が多く、次に外来（診療所）、外来（病院）の数量が多くなっています。しかしながら、高知県は、中央地区の数量が全体の約8割と大部分を占めており、中央地区の傾向が全体へ大きな影響を及ぼす特徴があります。中央地区では、外来（病院）院内処方、外来（診療所）院内処方の使用割合が平均より特に低くなっています。

5. 使用割合が高い支部（3支部）と低い支部（3支部）の比較（令和元年10月診療分）

一般名処方率、加入者拒否割合等と使用割合との比較



- ・地域別の集計は、医療機関および薬局の所在地に基づく。
- ・実質一般名処方率として、一般名処方加算にヒモ付くレセプト数に基づいて算出している。

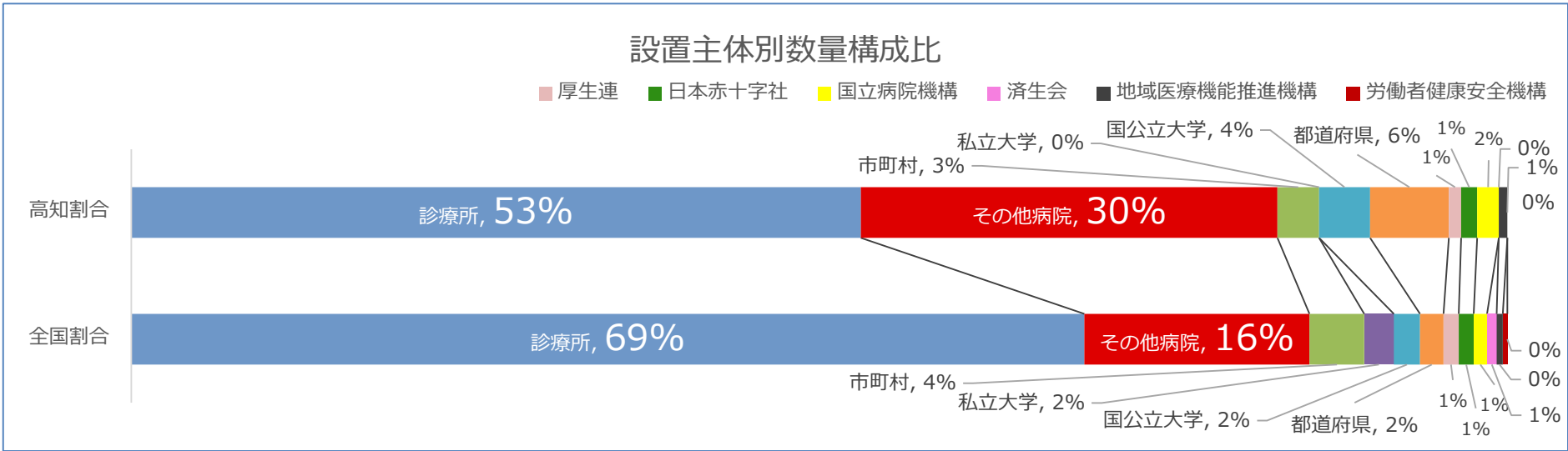
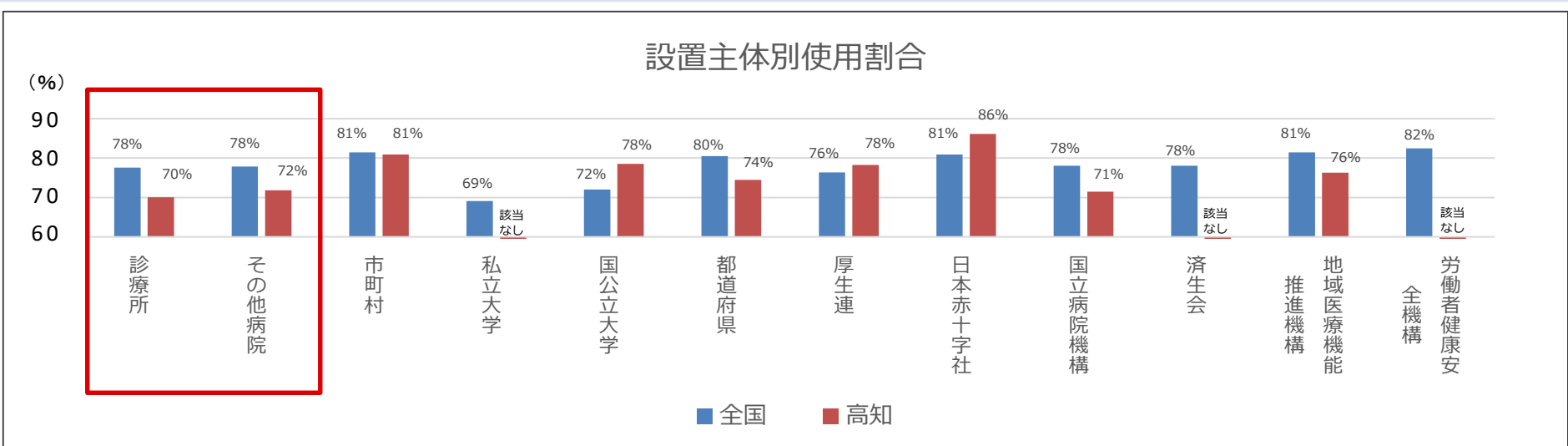
$$\text{（一般名処方加算1または2が存在する医科レセプトに、支部、記号、番号、性別、生年月日がヒモ付く調剤レセプトの数）} / \text{（調剤レセプトの数）}$$
- ・一般名処方加算1が存在する医科レセプトに、支部、記号、番号、性別、生年月日がヒモ付く調剤レセプトのみを集計対象とする。
- ・（調剤レセプトの加入者の都合で後発品を調剤しなかったコメントレコードのあるレセプト数）

$$/ \text{（一般名処方加算が存在する医科レセプトに、支部、記号、番号、性別、生年月日がヒモ付く調剤レセプト数）}$$
- ・国公費の記載のあるレセプトを集計対象とする。（地方単独公費のみのレセプトは集計対象外※子供医療など）

（協会けんぽ加入者データより）

- ①全体的に一般名処方がされている場合は、ジェネリック医薬品の選択率が高くなっています。
- ②全体的に公費対象レセプトの場合は、ジェネリック医薬品の選択率が低くなっています。
- ③使用割合が高い支部と低い支部を比較した場合、一般名処方率よりも患者拒否率のほうが相関性が高いといえます。

6. 設置主体別の使用割合と構成比（令和元年10月診療分）



高知支部は、設置主体が「国公立大学」「厚生連」「日本赤十字社」では、使用割合が全国平均を上回っていますが、全体の8割以上の数量を占める「診療所」と「その他病院」が全国平均を下回っているため、全体としての使用割合も低くなっていることがわかります。したがって、大病院よりも個人病院の影響力が大きいといえます。

7. ジェネリック医薬品軽減額通知の送付事業について

ジェネリック医薬品軽減額通知 年度別効果実績一覧

【軽減通知イメージ】

ジェネリック医薬品を使ってみませんか？

あなたに処方されたお薬をジェネリック医薬品に変更した際の軽減額を裏面に記載しています。

＜裏面のお知らせの見方＞

- 見本**
- 平成31年 4月 10日付で処方されたお薬(先発医薬品)
- ジェネリック医薬品を使用したお薬の軽減可能額
- 平成31年 4月 10日付で処方されたお薬(先発医薬品)の軽減可能額
- ジェネリック医薬品に変更されたお薬の軽減可能額

1 処方年月
この月に処方されたお薬で、軽減可能額の計算を行っています。

2 お薬代の軽減可能額
ジェネリック医薬品に変更することで軽減できる1か月のお薬代の目安です。
※お薬代は処方箋等に要する費用は含まれていません。

3 お薬名
軽減できるお薬が高いものを最大で種類別記載しています。

4 お薬代
ジェネリック医薬品に変更する前の1か月のお薬代です。
※お薬代のみを記載していますので、お支払いになった金額とは異なります。

5 注意事項
具体的なジェネリック医薬品の名前が書いているのはなぜ？
A. 一つの先発医薬品に対し、複数のジェネリック医薬品が存在する場合があります。この「お知らせ」には具体的なジェネリック医薬品名を記載していません。具体的なお薬については、かかりつけの医療機関または薬局でご相談ください。

全国健康保険協会
協会けんぽ

協会けんぽ 高知支部の合計								
	一回目通知				二回目通知			
	通知件数	切替者数	切替率	軽減額/月(円)	通知件数	切替者数	切替率	軽減額/月(円)
平成21年度	11,264	2,874	25.5%	4,689,378				
平成22年度	4,746	946	19.9%	1,192,618				
平成23年度	6,713	1,540	22.9%	2,132,936	0	0	0.0%	0
平成24年度	7,392	1,664	22.5%	2,135,833	2,108	467	22.2%	589,198
平成25年度	10,781	2,376	22.0%	3,500,314	4,077	1,091	26.8%	2,114,437
平成26年度	12,405	3,072	24.8%	4,983,866	12,621	2,846	22.5%	4,313,831
平成27年度	13,032	3,306	25.4%	5,081,247	14,552	3,840	26.4%	5,874,640
平成28年度	22,402	5,371	24.0%	8,698,168	21,612	4,956	22.9%	7,315,993
平成29年度	25,676	6,469	25.2%	10,946,020	24,318	7,341	30.2%	13,303,434
平成30年度	26,151	6,369	24.4%	9,561,003	21,607	5,457	25.3%	8,914,090
累計	通知件数	切替者数	切替率	軽減額/年(円)				
	241,457	59,985	24.8%	1,144,164,058				

年間約11.4億円の軽減効果

協会けんぽ 全支部の合計								
	一回目通知				二回目通知			
	通知件数	切替者数	切替率	軽減額/月(円)	通知件数	切替者数	切替率	軽減額/月(円)
平成21年度	1,452,132	380,301	26.2%	579,931,590				
平成22年度	549,570	118,287	21.5%	144,627,555				
平成23年度	843,704	196,588	23.3%	250,673,658	210,987	53,639	25.4%	77,866,831
平成24年度	968,426	243,394	25.1%	314,098,285	270,138	67,268	24.9%	88,979,433
平成25年度	1,347,831	323,936	24.0%	446,736,560	500,090	144,820	29.0%	252,125,791
平成26年度	1,656,764	464,207	28.0%	702,724,872	1,638,884	421,126	25.7%	611,618,980
平成27年度	1,806,296	506,796	28.1%	726,310,734	1,939,597	562,889	29.0%	843,769,158
平成28年度	3,071,331	777,828	25.3%	1,132,698,686	3,028,142	764,723	25.3%	1,117,094,152
平成29年度	3,579,162	981,835	27.4%	1,558,269,035	3,455,431	1,166,948	33.8%	2,072,603,571
平成30年度	3,714,412	1,008,670	27.2%	1,456,751,119	2,982,936	849,325	28.5%	1,291,867,049
累計	通知件数	切替者数	切替率	軽減額/年(円)				
	33,015,833	9,032,580	27.4%	164,024,964,713				

年間約1,640億円の軽減効果

○平成21年度から平成30年度2回目通知までの累計(人数はのべ人数)

○軽減額/年: 軽減額(月)×12ヶ月(単純推計)

【同封リーフレットイメージ】

ジェネリック医薬品を使ってみませんか？
ジェネリック医薬品とは、同じ成分・効果のあるお薬です。ジェネリック医薬品は、先発医薬品よりもお薬代が安くなります。

でも、飲んでいたら薬が効かない……
ジェネリック医薬品は、先発医薬品と同じように効きます。薬が効かない場合は、かかりつけの医療機関にご相談ください。

ジェネリック医薬品のメリット
ジェネリック医薬品は、先発医薬品よりもお薬代が安くなります。また、ジェネリック医薬品には、副作用が少ないものや、飲みやすいものがあります。

ジェネリック医薬品を使う時のポイント
ジェネリック医薬品を使うときは、かかりつけの医療機関または薬局で相談してください。

協会けんぽでは、毎年2回(2月、8月)、ジェネリック医薬品に切り替えることで薬代の軽減額が一定以上見込まれる方、及び生活習慣病(高血圧症、糖尿病、高脂血症等)や慢性疾患(喘息、リウマチ等)などの先発医薬品を長期間服用されている方へ、ジェネリック医薬品への切り替えを案内する「ジェネリック医薬品軽減通知」を送付しており、これまでの軽減効果額は、上記表のとおりとなっています。